

## G I G A スクール構想への対応について

## 1. 背景・国の施策

Society 5.0 時代を生きる子供たちにふさわしい学びの実現に向けて  
国が令和元年度に構想

- ・子供の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び
- ・1人1台端末と大容量の通信ネットワークの一体的配備

## 2. 本県の対応

## (1) 小中学校 (R2 1人1台端末整備完了)

R3	R4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校指定(小8、中5)</li> <li>→授業動画のSSN掲載</li> <li>→公開授業の実施</li> <li>→GIGAスクール連絡会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校指定(小9、中6：教科毎)</li> <li>→授業動画のSSN掲載</li> <li>→公開授業及び研究協議会の実施</li> <li>→GIGAスクール連絡会の開催</li> <li>→リーフレット等で好事例紹介</li> </ul>

## (2) 高等学校 (R2 3クラスに1クラス R3 1人1台端末整備完了)

R3	R4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校3校指定</li> <li>→公開研究授業実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校3校指定</li> <li>・教科(11教科)毎にプロジェクトチームを編成(教員+指導主事)</li> <li>→先進校視察、授業映像配信</li> <li>→協議会、公開研究授業の実施</li> </ul>

## (3) 教員研修

R3	R4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職、推進リーダー向け研修</li> <li>・GIGA出前サポート</li> </ul> <p>(※)GIGAスクールサポート課設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職、推進リーダー向け研修</li> <li>・GIGA出前サポート</li> <li>・1人1台端末の活用研修を拡充</li> </ul>

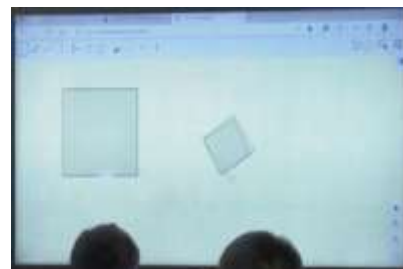
### 3. 学校現場での取組状況 (授業場面毎の効果的な活用例)

(例) 志賀町立富来中学校 (数学：面積が  $2\text{ cm}^2$  の 1 辺を求める授業)

#### (1) 導入

##### ・ 学習課題

→ 図形を自由に動かせるフリーソフトを使い教師が作成した課題を生徒の端末に一斉送信する。



【課題の説明】

#### (2) 展開

##### ① 個人で考えを持つ場面

→ 図形を自由に動かしつつ、自分の考えをもつ。



【自分の考えをもつ】

##### ② ペアやグループで交流する場面

→ 生徒がグループを作り、互いのタブレットで発表資料を持ち寄り、端末上で共有して議論する。



【グループ学習】

##### ③ 全体で交流する場面

→ ペアやグループの考えを、大型モニターや 1 人 1 台端末の画面に写しながら伝え合う。



【全体での発表】

#### (3) まとめ

##### ・ 復習、既習事項の確認

→ アンケート機能を用い、本時のまとめや振り返りを記載する。

→ 全員の回答を共有し、次時の学びに繋げる。



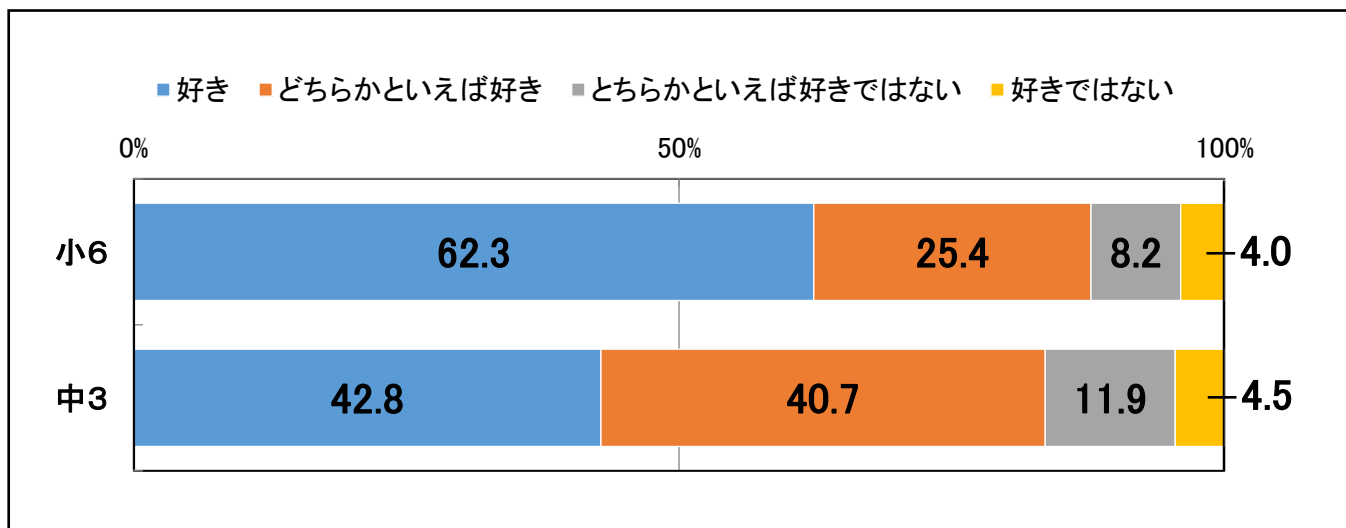
【振り返り】

## 4. 成果と課題

### ○令和4年度「基礎学力調査」質問紙調査結果より

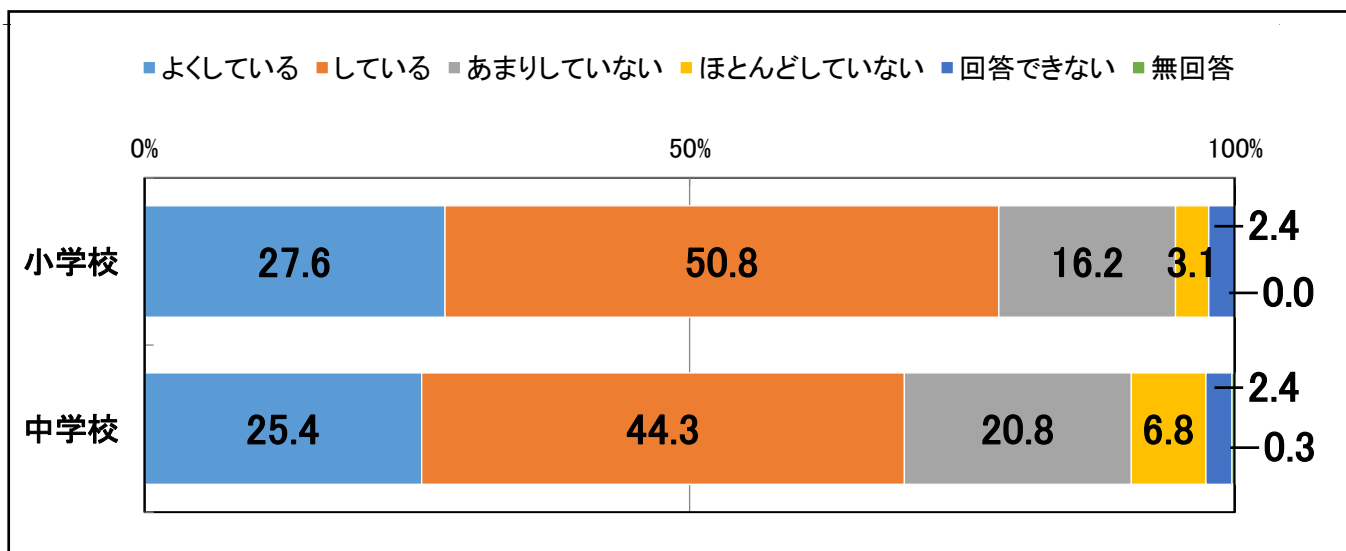
Q1：コンピュータなどのICT機器を使って勉強することは好きですか。

(児童生徒対象)



Q2：児童生徒がコンピュータなどのICT機器を使用した授業を行っている。

(教員対象)



○学校現場の声（抜粋） GIGA スクール連絡会に係るアンケート（R3.12.17）より

**操作スキル**

◎児童生徒のタイピングスキルが向上している。

▲1人1台端末を活用する教職員にスキルの格差がみられる。より一層の研修が必要である。

**授業での活用**

◎児童生徒同士で意見を比較検討する場面が格段に増えた。

◎録画機能を生かした体育の授業、テレビ会議機能を生かした他校とのオンライン授業など、今までになかった活用に取り組んでいる実践がみられる。

◎外部とつながる授業が容易になり、総合的な学習の時間等に様々な立場の人から学ぶことで、得られる知識や情報の幅が広がった。

▲1人1台端末の効果的な活用を推進するためにも、まずは、授業の構想力自体を向上させていく必要がある。

▲活動の跡が児童のノートに残らない。タブレットとノートをうまく併用するなど、学習内容を定着させるための取組が必要である。

**情報モラル**

◎端末利用の約束や使用ルールを児童生徒及び保護者向けに確認し、理解を得ている。

▲使用頻度の増加とともに、不適切な使用（ゲーム、チャット等）もみられ、指導の難しさを感じている。

**その他**

◎タブレットの持ち帰りを通じて、家庭学習の質の向上につながっている。

◎授業以外での活用場面（不登校児童生徒への学習の確保、全校集会でのmeetの活用、家で運動会の表現運動の練習に活用、朝の会での健康観察、各種アンケート等）が徐々に広がってきた。

◎ICT支援員のサポートは実にありがたい。

▲端末持ち帰りに対応する家庭でのWi-Fi環境等、環境整備が必要。

▲授業中に端末の不具合が起こった場合、指導者が対応に追われたり、授業が中断してしまうことがある。